

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：33917

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12219

研究課題名（和文）「都市的なものの地球化」とは何かールフェーヴル思想の現代的展開を通して解明

研究課題名（英文）What is a planetarization of the urban

研究代表者

平田 周 (Hirata, Shu)

南山大学・外国語学部・准教授

研究者番号：00803868

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：現代の都市研究における有力な理論的枠組みとして、プラネタリー・アーバニゼーション研究が存在する。この枠組みでは、都市化という過程がインフラ網の構築を通じて都市のみならず、国家のスケールを超えて、地球全体にまで及んでいる様相が研究対象となる。この研究は、都市社会学者アンリ・ルフェーヴルが提起した「社会の完全な都市化」に着想を得る一方で、彼の「都市への権利」に両義的な態度を示す。本研究では、都市空間に対する分析手法の変化によってしばしば見落とされる「権利」の概念に着目し、現代フランスの政治哲学と接続しながら、権利が参照されるだけでなく、解釈を通じて新たな権利を発明する側面があることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、気候変動の問題は、「人新世」と呼ばれる新しい地質学的な時代区分が提起されるほど深刻なものとなる一方で、それはしばしば無媒介に個人を地球に向かわせるような印象をも与える。本研究が課題とする、ルフェーヴルが提起した「都市的なものの地球化」とは何かという問いは、この問いを現代的に展開するプラネタリー・アーバニゼーション研究とともに、個人と地球の関係を媒介する中間領域として現代の都市空間を位置づけるような視座をもつ。私たちが営む日常生活の舞台である都市化された空間が、地球の生態系といかなる関係を結んでいるのか。本研究は、このような一般的な問いから学際的な研究成果にまで通じるものである。

研究成果の概要（英文）：A Study of Planetary Urbanization is nowadays an influential theoretical framework in urban studies. In this framework, the process of urbanization becomes a research object: this process is extending, through the construction of infrastructural networks, across cities boundaries and national territories, to the entire planet. This study is inspired by the "complete urbanization of society" proposed by urban sociologist Henri Lefebvre, while it is showing ambivalence toward his "right to the city". This year's work focuses on the concept of "right" which is often overlooked due to changes in analytical approaches to urban space, and connects it to contemporary French political philosophy, arguing that there are aspects in which rights are not only referred to, but also invent new rights through interpretation.

研究分野：思想史

キーワード：アンリ・ルフェーヴル プラネタリー・アーバニゼーション スケール 空間論 都市への権利 市民権 民主主義

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、20世紀のフランス思想史にアンリ・ルフェーヴル(1901-1991)の空間論を位置づける研究と、現代の都市研究の動向、とりわけルフェーヴルの空間論を理論的に参照した研究とを交差させるなかで生まれた。当初の背景として次の三つの問いかけがあった。ルフェーヴルが1989年に提起した概念「都市的なものの地球化」は何を意味していたのか。次に、2010年代に誕生し、現在進行中のプラネタリー・アーバンゼーション研究はどのようにルフェーヴルの概念を解釈しているのか。最後に、都市的なものが地球に広がる時、ルフェーヴルが提起し、今日では世界の多くの都市が批准し制定する「都市への権利」が、「都市的なものの地球化」と結ぶ一見矛盾するようにみえる関係は、どのように考えられるのか。

## 2. 研究の目的

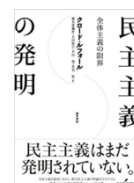
本研究の目的は、フランスの哲学者・都市社会学者アンリ・ルフェーヴル(1901-1991)によって着手された空間論の世界的な展開を視野に収めつつ、彼が晩年に提起した「都市的なものの地球化」の含意を明らかにすることにある。

## 3. 研究の方法

本研究では思想の系譜と時代状況を往還しながら、概念の意味形成を画定する思想史の手法を用いて、次の作業を行った。(1)「都市的なものの地球化」とその時代状況に関する分析、(2)その現代的解釈であるプラネタリー・アーバンゼーション研究の検討、(3)都市化とグローバル化の相互関係の観点から「都市への権利」に関する政治的考察。

## 4. 研究成果

(1) 論文「クロード・ルフォールにおける民主主義と自由主義の接合関係をめぐって」は、報告者が訳者として加わったクロード・ルフォール『民主主義の発明』(渡名喜庸哲ほか訳、勁草書房、2017年)の翻訳作業と、それを巡って行われたシンポジウム「全体主義と民主主義」(2017年7月8日、於：慶應義塾大学)における報告者の発表およびそれに対する質疑応答をもとに書かれたものである。



ルフォールの民主主義論は、自由主義との結びつきを前提とする立場である。

他方で、政治理論の領域で、ラディカル・デモクラシーと呼ばれる潮流の代表的な論者であるシャントル・ムフは、ルフォールの民主主義論から影響を受けながらも、民主主義と自由主義の結合は、歴史的に偶発的なものでしかないという批判を提起する。彼女によれば、個人的自由や人権の保護を目的とする法の支配や法治国家を重視する自由主義と、平等や人民主権に価値を置く民主主義との関係は必然的に結ばれるものではなく、偶発的に生じた接合関係でしかありえないからである。

本稿では、このムフの論点に対して、ルフォールの自由主義、すなわち人権の政治が個人の自由や法治国家に単純化されるものなのかを問い直した。そこで分析の中心対象としたのは、人権を個人主義的なものとして解釈するカール・マルクスに対するルフォールの批判的な読解である。その分析を通じて、ルフォールにとって、人権の政治が、ただ人権を引き合いに出すのではなく、その解釈を通じて新たな権利を産出し、民主主義を発明し直すものであることを論じた。

しばしば個人的な自由に属するものとみなされる権利への訴えが、新たな社会関係を構築し、民主主義に属する平等の地平を拡大するという逆説は、後述の(4)における「都市への権利」に新たな解釈を加えるための基礎となった。

(2) 事典項目「プラネタリー・アーバンゼーション」は、横浜国立大学都市科学部が編纂した『都市科学事典』の執筆項目として依頼を受け書かれたものである。英語圏の都市研究において理論的枠組みとして提起された「プラネタリー・アーバンゼーション研究」が、従来の都市研究で考察対象とされてきた、行政的に境界確定された都市領域に代えて、都市の領域のみならず国家を超えて地球にまで影響を及ぼす都市化の過程を分析対象とする研究枠組みとして成立した経緯を解説する。



(3) 『惑星都市理論』は、プラネタリー・アーバンゼーション研究を手がかりに、現代の都市空間の諸相を明らかにすべく編まれたものであり、思想史、地理学、都市社会学の研究者による9本の論考と2本の翻訳に加えられた序とあとがきから成る。報告者は、「序 プラネタリー・アーバンゼーション研究をひらく」および論文「都市への権利、ある思想の運命」を執筆した。



序では、プラネタリー・アーバンゼーションが、グローバル化による建造環境の変化だけでなく、都市化が金融と結びついてグローバル化の原動力となってい

る現状によって生まれていること、それを対象とするプラネタリー・アーバニゼーション研究が、本研究の課題【上述「研究の方法」(1)と(2)】に関わるルフェーヴルによって提起された「都市的なものの地球化」と有する理論的に深い関係を持つこと、さらにはインフラストラクチャー研究やロジスティクス研究と結びついていることなどを明らかにした。

論文「都市への権利、ある思想の運命」では、プラネタリー・アーバニゼーションの状況を受けて、ルフェーヴルが提起した「都市への権利」における「権利」の含意を明らかにするために、上記の論文の研究成果を踏まえて、クロード・ルフォールの民主主義論や、エティエンヌ・バリバルの市民権論を参照しつつ、都市への権利の概念が、都市空間のステータスの変化によって無効にされるものではなく、逆にその変化によって新たな権利の内実を創出することが求められていることを主張した。

(4) 論考「広範囲の都市化を通じたウイルスの伝播」は、プラネタリー・アーバニゼーション研究によって分類される二つの都市化、すなわち従来の都市研究の対象である「高密度の都市化」と、都市の領域を超えて地球の表面にまで拡大する「広範囲の都市化」とを整理した上で、後者の都市化の類型と、2020年初頭から広まる新型コロナウイルス感染症の広がりとの関係を論じた。とりわけ、人口密度、モビリティ、インフラストラクチャー、ガバナンスの相互関連性に焦点を当てた。

(5) 論考「現実の空間と空間の表象：新たな表象の政治に向けて」は、写真家レイモンド・ドゥパルドンと思想家ポール・ヴィリリオによって、パリのカルティエ現代美術財団で開催された展覧会『生まれの地』に参加した建築家・芸術家ローラ・クーガンによる地理空間データに関する批判的考察をもとに、プラネタリー・アーバニゼーション研究における空間表象と解釈の関係を論じたものである。クーガンは、テクノロジーが生み出す表象なくして現実は知り得ないと主張する一方で、表象は解釈を必要とする。それは、データの検討を妨げるかたち、すなわち解釈の独占に反対する表象の政治が存在することもまた論じる。こうした表象の政治が『生まれの地』に展示されたクーガンのインスタレーションに存在し、この地図情報を駆使した地球の表象は、プラネタリー・アーバニゼーションのイメージとしてあり得ることを示した。

(6) 「訳者解題—権力論の一類型としての狩りについて」は、フランスの哲学者グレゴワール・シャマユの『人間狩り—狩猟権力の歴史と哲学』の訳者に報告者が解題論文を付したものである。『人間狩り』は、ミシェル・フーコーが提起した「司牧権力」、すなわち個と全体の生を存続させるために服従させる権力に対して、人間を狩り立て、公的領域から排除するような「狩猟権力」が古代ギリシャの奴隷制から現代の外国人・移民排斥に至るまで存在してきたことを歴史のかつ哲学的に論じた著作である。



原書が2010年に出版されたことを踏まえて、訳者解題では、本書の論点、その後のシャマユの研究、本書から影響を受けたエルザ・ドルランの『自己を守ること』(2017年)の三つのテーマを論じた。とりわけ、2020年5月25日に起きたジョージ・フロイド絞殺事件から再燃したブラック・ライブズ・マター [黒人の命は重要だ] 運動および世界的な反人種主義運動の文脈を踏まえて、アメリカおよびヨーロッパにおいて、黒人が自己を守ることが禁じられてきた歴史を検討した。この論文は、これまでの報告者の研究に欠けていたように思われる具体的な社会関係や人種関係の分析を補う意味で、本研究にも密接に関連したものとなっている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 平田周	4. 巻 第48巻第7号
2. 論文標題 広範囲の都市化を通じたウイルスの伝播	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 126-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田周	4. 巻 第52巻第7号
2. 論文標題 現実の空間と空間の表象－新たな表象の政治に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 298-304
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚原東吾、平田周	4. 巻 -
2. 論文標題 グローバルとローカルの来たるべき「あいだ」ヘーブラネタリー・アーバニゼーション研究と科学批判学が見据える第三の道	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コロナ禍をどう読むか	6. 最初と最後の頁 369-427
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田周	4. 巻 -
2. 論文標題 プラネタリー・アーバニゼーション	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市科学事典	6. 最初と最後の頁 1004-1005
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田周	4. 巻 -
2. 論文標題 都市への権利、ある思想の運命	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 惑星都市理論	6. 最初と最後の頁 333-354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田周	4. 巻 16
2. 論文標題 クロード・ルフォールにおける民主主義と自由主義の接合関係をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『アカデミア 人文・自然科学編』	6. 最初と最後の頁 141-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平田周	4. 巻 -
2. 論文標題 訳者解題 - 権力論の一類型としての狩りについて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間狩り - 狩猟権力の歴史と哲学	6. 最初と最後の頁 215-240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 平田周
2. 発表標題 プラネタリー・アーバニゼーション研究の可能性をめぐって
3. 学会等名 人文地理学会(地理思想研究部会)(招待講演)
4. 発表年 2020年

## 〔図書〕 計2件

1. 著者名 平田 周、仙波 希望	4. 発行年 2021年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 456
3. 書名 惑星都市理論	

1. 著者名 クリスティン・ロス、共訳：中村 督、平田 周	4. 発行年 2019年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 300
3. 書名 もっと速く、もっときれいに一脱植民地化とフランス文化の再編成	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

<p>研究者詳細（南山大学教員平田周）  <a href="https://portal.nanzan-u.ac.jp/research/view?l=ja&amp;u=103583">https://portal.nanzan-u.ac.jp/research/view?l=ja&amp;u=103583</a>  researchmap（平田周）  <a href="https://researchmap.jp/ShuHirata">https://researchmap.jp/ShuHirata</a></p>
---

## 6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関